

『かぞびば!』との出会い



2017, 12, 21 小研修会レポート

すくすく広場会員 鈴木 智子

私が『かぞびば!』を知ったのは2017年6月でした。息子の幼稚園の連絡ノートにかぞびばの案内のチラシが入っていて、それを見た瞬間、まさに私が探し求めていたものはこれだ!と思いました。かぞびばに行って良かったな、感動したことなどかぞびばの魅力をいくつか書きたいと思います。

1、冒険遊び

騎西中央公園の一面にその空間がありました。まず最初に目に付いたのは焚き火でした。小学生の子供達がすすんで火を興して火が消えないように管理しながら持参したソーセージ、マシュマロ、焼き芋、パン、とうもろこしなどを焼いて食べていました。キャンプやBBQの経験がない私はどうやっていいのか分かりませんでしたし、ましてや私の4歳の子供が火の管理を出来るとは全然思いませんでした。参加していた他のお母さんにマシュマロをもらい割り箸に刺して他の子供が興してくれた火であぶって、BBQで食べるマシュマロは格別なおいしさだと感じながら子供と楽しく食べていました。BBQが初経験だった私はそこまで満足していたのですが、他の子供に影響されたうちの子が「やってみたい」と言い出し新たに七輪を用意し出したのです。何を言い出すのか、私だってやったことがないのにまだ4歳じゃ出来るわけないじゃないと思いました、子供のチャレンジ精神をつぶしたくなかったので子供と一緒に焚き

火をやってみることにしました。周りにいた他の子のお父さんや子供にやり方を聞いてやってみると、意外な理由で楽しくて熱中してしまいました。そこでは木炭を使わず公園の中に落ちている木の枝や落ち葉を燃やして焚き火をしていました。木炭があればもっと楽なのでしょうけど、落ち葉や枝が燃え尽きる前に枝や落ち葉をかき集めて網を持ち上げて火の中に投入、その量が多過ぎると火に覆いかぶさり火が消えてしまうので少しずつそーっと、そしてうちわで仰ぐ、その一見単純で面倒な作業ですが、少しの間でも放っておくと火が消えてしまうのでその場を離れられず熱中してしまい、そこに面白味を感じました。飽きっぽい子供も飽きずに没頭し、自力で焼いたことにやりがいを感じて水を得た魚のようにイキイキとしている姿を見て、かぞびばに訪れてからたったこれだけの時間で我が子の成長を感じられました。

かぞびばでするような焚き火、工作、木にロープをかけてハンモックやロープ遊び、水遊びなど冒険的で多少の危険を伴う体験的で、自分達で遊びの内容を構築していける可能性のある遊び場づくりのことを「冒険遊び場」や「プレーパーク」と呼ぶことを後ほど調べて知りますが、そのような危険を伴うことは怪我を心配して普段なかなかさせられないと思います。冒険遊びを通して、家でテレビやゲームをする楽しみとは違った普段感じられない楽しみを感じて、子供達がワクワク、活き活きしているのが目に見えて分かりました。そして、子供が自ら進んで遊びの場に入っていく遊びに加わったり、自由な遊びを創り出し楽しんでいました。



←初めての木工。とんかちやのこぎりを使わせるのは初めてでしたが、他のお父さんに教えてもらったり手伝ってもらいながら自由に作っていました。

2、異なった年齢の子供同士、親以外の大人と遊べる

私がずっと「かぞびば」のような場があればいいなあと思ってきた大きな理由の1つに、現代社会の人間関係の希薄化があります。私の子供時代、子供同士で近所の家に遊びに行き、年上でも年下でも関係なく毎日自由に遊んでいました。最近は治安の悪化や少子化などの理由で子供同士が自由に近所の子供達と遊ぶことが少なくなったと聞き、子供同士のつながりの薄さを不憫に思い、それによる将来の人間関係の難しさ、家で一人で遊ぶ時間が増えることでテレビやゲームなど受身の遊びが増えてしまい想像力や創造力への弊害、そして将来どんな社会になるのだろうと心配していました。そして、漠然とかぞびばのような場があれば、と思っていました。

かぞびばでは主に幼児から小学生が多く参加していてその子供の兄弟や親と1つの場を共有し、そこで野外活動を経験することで子供同士が年齢関係なく遊ぶことが出来て、年上や年下と関わることの大切さを経験出来ます。

それから、かぞびばに初めて行った日に感じたことは、誰がどの子供の親だか、誰がどの親の子だか分からなかったということです。実際に何人かに「この子のお母さん(又はお父さん)ですか?」と聞きましたが、私の予想とはほとんどはずれました。それから最初見てただけでは、どの人がスタッフでどの人が参加している子供の親なのかもよく分かりませんでした。それだけ子供同士だけでなく大人とも密接な関わり合いが出来ていて、自分の子供以外の子とも大人が遊んだり教えたり注意したり出来る場なのだと思います。



3、プレーリーダーの大きな役割

かぞびばで感じた魅力:子供達が初対面の他の子供達ともすぐに打ち解けて仲良く遊べたり、遊びに没頭できること、今まで経験したことがない遊びにも挑戦して自信をつけられるのはなぜかな、とこのレポートを書くことで分析し考えることが出来たのですが、それはプレーリーダーの大きく分けて3つの働きかけがあるからだと思いました。

①遊びの中で他の子供と協力し合うため、初対面の子とも仲良くなれる

(意外と子供は人見知りするようですが、かぞびばで親から離れて初対面の子と遊んでいる子供を見て、あれ?こんなに積極的だったかな?と思えました)

②子供達が遊びを見つけて主体的に遊べるよう支援するため、指示したり教えたりの働きかけを極力抑え、遊びの環境を提供する知恵をしぼっている。

(子供の行動を観察して子供が何かを始めた時、プレーリーダーは子供の行動を「いいものを持ってきたねー」「いいねー」などと褒めることで、子供は次のアイデアを思いつき遊びを発展させていくことができる。)

③プレーリーダーが見守る中、少し危険を伴う遊びなど普段経験できない遊びをすることに子供がワクワク、活き活きと遊ぶことができる。

(プレーリーダーは定期的に子供の所に行き安全を確認しながら子供のやっていることを褒めていた。)

プレーリーダーの関戸博樹さんがNHK総合1「今日なににして遊ぶ」の番組に出演された時に「子供は自分の伸びたい方向を子供自身が持っている、それを見守り保障することが大人に出来ること」、「プレーリーダーの仕事はリードするというより環境を整えるのが仕事です。」とお話されていました。また、大人が遊びをリードし過ぎると子供が離れてしまうことが多いそうです。今までつい子供にこういう遊び方があるよ、こういう風にすると面白いよ、と提示してしまっていました。さらに、子供がそれに素直に乗ってくれないと苛立ちを感じたり、反抗期なのかな?なんて思うてしまうこともありました。関戸さんの「大人が面白いと思うことと子供がおもしろいということは違う」という言葉を聞いたとき、そんな自分と子供との関わりを思い出して、目から鱗が落ちる思いでした。関戸さんが言う「一番いいところを決めるのは子供です」まさにその通りだと思いました。

子供達が自由に遊びを見つけるよう子供たちに新しい遊びのきっかけや環境を提供すると、その後、子供達がどんどん新しい遊びを展開していき大人には思いつかないような遊びを創り出し、主体的に遊びを見つけ出した子供達はとても活き活きとし集中して遊びを楽しんでいる場面をいくつか見ました。

そんな創造力のある主体的な遊びの場面の1つを挙げると、「人工ウォータースライダー(勝手に名付けました)」です。公園内にある小高い山にブルーシートを敷いて坂の上から水をバケツで流して滑り台にして遊んでいました。それを見て、何て面白いことを考えるんだろう、

子供ってすごいな、こんなことをさせてくれるかぞびばは素敵な所だなと思いましたが、その反面、バケツに汲んだ重い水を坂の上まで運んで一回一回流すなど手間がかかる遊びなのですぐに飽きて他の遊びを始めるかなと大人目線で考えていました。でも意外な事に、子供達は自分達で遊びを工夫・展開していくことで長い時間飽きることなく遊んでいました。それは、それぞれの年齢や能力に応じて出来る事を分担し協力しながら水を汲み「流すよー」と声を掛けあいながら滑る遊びになっていたのです。子供同士が自然とすぐに年齢関係なく仲良くなり、自分が出来る役割を持つことでやりがいを感じ、そして何よりも用意された遊びをするのと違って自分達で創り出した遊びをする、そんな時の子供達はいつになく活き活きとしているのを感じました。そして私は何かに没頭する現象は子供が大きく成長できるチャンスにもなるのでとても貴重な経験だと思って来ましたが、その現象をかぞびばで遊んでいる間に、有難いことに何度も見る事が出来ました。そのように子供達が自ら遊びを見つけ出す場やチャンスを提供するプレーリーダーの役割はとても大きいと思いました。

最後に、現代っ子の人とのつながりの薄さとテレビ・ゲームの時間が増えていることについてあまり他者と話し合ったことはなく自分の中で考え心配していましたが、かぞびばや冒険遊び場は私が知る何年も前から存在していて、子供達の遊びのため、将来のために一生懸命関わっている人達がたくさんいるということを知り嬉しく思いました。そういう方々と今の子供達のため、将来のため、住みよい地域社会を作っていくために少しでも出来ることをしていきたい、そんな気持ちになりました。

かぞびばに初めて行って感じた印象と感じた魅力を私目線から書かせて頂いたので、実際にはもっと多くの魅力があるのだと思いますが、最初に受けた印象を大事にしたかったので、このレポートを通して拙い文章ながら表現する機会を頂けたことに感謝いたします。今後も子供と一緒に参加して楽しみながら子供の成長と発達を見守っていきたいです。

プレーリーダーのお仕事について説明するために、11月3日NHK総合「くうねるあそぶ」と11月4日Eテレ「ウワサの保護者会」～ゲーム時間を減らそう大作戦～に出演された時の関戸博樹さんのお言葉を使わせて頂きました。今後の子供との関わりに生かせそうです。ありがとうございました。また、こんな機会に恵まれましたのも、かぞびばを運営してくださっている高木亜矢さん、溝田瑩貴さん、小沢ゆうこさんら、地元のスタッフの皆さん、ベーゴマ少年団の星月京太郎さんのお陰と感謝しております。今後ともよろしくお願いします。

2017年11月21日